

令和4年度決算の概要

1. 資金収支計算書について

「資金収支計算書」は、当年度の学園全ての資金の動きを示したものです。

資金収支の収入の部合計額（前年度繰越支払資金を除く）は前期決算額と比較して 869 百万円増加しました。所有不動産売却、受託事業等付随事業収入増等によるものです。一方、支出の部合計額（翌年度繰越支払資金を除く）は 17 百万円増加しました。この要因は令和4年度に物価上昇等に伴うコスト増、補助活動等の回復によるものです。その結果、翌年度繰越支払資金は、1,233 百万円増加しました。

2. 活動区分資金収支計算書について

「活動区分資金収支計算書」は、当年度の資金の動きを「教育活動」「施設整備等活動」「その他の活動」の3つの活動に分類し、活動区分ごとに資金の流れを示したものです。

「教育活動による資金収支」では、本業である教育活動での収支状況を見ることができ、当年度は 1,214 百万円の収入超過となりました。「施設設備活動による資金収支」では、所有不動産の売却による施設設備売却収入増により、699 百万円の収入超過となりました。「その他の活動による資金収支」では、新たな借入は実施せず、借入金の約定返済等により 679 百万円の支出超過となりました。その結果、翌年度繰越支払資金は 1,233 百万円の増加となりました。

3. 事業活動収支計算書について

「事業活動収支計算書」は事業活動に係る経常的な収支（教育活動収支と教育活動外収支）及び臨時的な収支（特別収支）の均衡状態を明らかにすることにより、学園の当年度における経営状態を示したものです。

「教育活動収支」では、収入が前期比 233 百万円増加、支出が 398 百万円増加、教育活動収支差額は前期比 166 百万円減少し 181 百万円となりました。付随事業収入の増加の一方で光熱水費等教育研究経費、管理経費の増加が要因としてあげられます。「教育活動外収支」では、収入が前期比 1 百万円減少、支出が 13 百万円減少、前期比 12 百万円増加したものの教育活動外収支差額は▲128 百万円となりました。

その結果、経常収支差額は前期比 154 百万円減少の 53 百万円となりました。又、「特別収支」では施設設備売却収入があり 175 百万円となりました。

4. 貸借対照表について

「貸借対照表」は、当該年度末における学園の財政状態を示したものです。

「資産の部」は減価償却等により前期末比 393 百万円減少、資産の部合計は 80,743 百万円となりました。

「負債の部」は借入金の返済等により前年度比 620 百万円の減少、負債の部合計は 11,491 百万円となりました。

「純資産の部」は、基本金が前年度比 380 百万円増加、繰越収支差額が前年度比 153 百万円減少、純資産の部合計は前年度比 228 百万円増加、69,252 百万円となりました。

令和4年度

決 算 書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

- 1 資金収支計算書
- 2 活動区分資金収支計算書
- 3 事業活動収支計算書
- 4 貸借対照表
- 5 財産目録
- 6 監事監査報告書
- 7 独立監査人の監査報告書

学校法人 都築学園

資金収支計算書

令和 4年 4月 1日 から
令和 5年 3月31日 まで

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	8,292,240,000	8,302,829,703	△ 10,589,703
手数料収入	138,144,000	140,161,386	△ 2,017,386
寄付金収入	57,200,000	57,485,454	△ 285,454
補助金収入	1,167,620,000	1,167,805,138	△ 185,138
資産売却収入	866,155,000	866,156,600	△ 1,600
付随事業・収益事業収入	669,750,000	689,873,846	△ 20,123,846
受取利息・配当金収入	243,000	253,729	△ 10,729
雑収入	148,028,000	148,191,334	△ 163,334
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,195,800,000	1,196,629,767	△ 829,767
その他の収入	234,690,000	193,500,955	41,189,045
資金収入調整勘定	△ 1,551,502,667	△ 1,551,417,087	△ 85,580
前年度繰越支払資金	3,503,700,163	3,503,700,163	/
収入の部合計	14,722,067,496	14,715,170,988	6,896,508
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	5,341,286,000	5,341,191,198	94,802
教育研究経費支出	2,599,616,000	2,599,497,374	118,626
管理経費支出	1,101,979,000	1,101,872,740	106,260
借入金等利息支出	139,912,000	139,911,359	641
借入金等返済支出	621,342,000	621,342,000	0
施設関係支出	70,942,000	70,934,055	7,945
設備関係支出	118,813,000	118,799,954	13,046
資産運用支出	0	0	0
その他の支出	374,526,000	374,485,431	40,569
[予備費]	(0) 100,000,000	/	100,000,000
資金支出調整勘定	△ 389,780,262	△ 389,673,296	△ 106,966
翌年度繰越支払資金	4,643,431,758	4,736,810,173	△ 93,378,415
支出の部合計	14,722,067,496	14,715,170,988	6,896,508

活動区分資金収支計算書

令和 4年 4月 1日 から
令和 5年 3月31日 まで

(単位 円)

		科 目	金額	
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	8,302,829,703	
		手数料収入	140,161,386	
		特別寄付金収入	30,156,966	
		一般寄付金収入	27,127,488	
		他団体助成金収入	201,000	
		経常費等補助金収入	1,150,152,138	
		付随事業収入	655,308,433	
		雑収入	147,353,634	
		教育活動資金収入計	10,453,290,748	
	支出	人件費支出	5,341,191,198	
		教育研究経費支出	2,599,497,374	
		管理経費支出	1,098,779,740	
		教育活動資金支出計	9,039,468,312	
		差引	1,413,822,436	
	調整勘定等	△ 200,049,159		
	教育活動資金収支差額	1,213,773,277		
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備補助金収入	17,653,000	
		施設設備売却収入	865,506,600	
		施設整備等活動資金収入計	883,159,600	
	支出	施設関係支出	70,934,055	
		設備関係支出	118,799,954	
		施設整備等活動資金支出計	189,734,009	
		差引	693,425,591	
		調整勘定等	5,216,042	
		施設整備等活動資金収支差額	698,641,633	
		小計 (教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	1,912,414,910	
	その他の活動による資金収支	収入	有価証券売却収入	650,000
			預り金収入	26,176,762
			貸与奨学金回収収入	17,770,000
小計			44,596,762	
受取利息・配当金収入			253,729	
収益事業収入			34,565,413	
過年度修正収入			837,700	
その他の活動資金収入計			80,253,604	
支出		借入金等返済支出	621,342,000	
		貯蔵品支出	258,387	
		販売用品支出	178,384	
		小計	621,778,771	
		借入金等利息支出	139,911,359	
		シンジケートローン手数料支出	2,200,000	
		過年度修正支出	893,000	
		その他の活動資金支出計	764,783,130	
		差引	△ 684,529,526	
		調整勘定等	5,224,626	
	その他の活動資金収支差額	△ 679,304,900		
	支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	1,233,110,010		
	前年度繰越支払資金	3,503,700,163		
	翌年度繰越支払資金	4,736,810,173		

事業活動収支計算書

令和 4年 4月 1日 から
令和 5年 3月31日 まで

(単位 円)

科 目		予 算	決 算	差 異		
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	8,292,240,000	8,302,829,703	△ 10,589,703		
	手数料	138,144,000	140,161,386	△ 2,017,386		
	寄付金	58,250,000	58,544,709	△ 294,709		
	経常費等補助金	1,149,880,000	1,150,152,138	△ 272,138		
	付随事業収入	635,250,000	655,308,433	△ 20,058,433		
	雑収入	119,191,000	119,362,001	△ 171,001		
	教育活動収入計	10,392,955,000	10,426,358,370	△ 33,403,370		
	科 目		予 算	決 算	差 異	
	教育活動支出の部	人件費	5,322,840,000	5,322,742,412	97,588	
		教育研究経費	3,535,344,000	3,535,219,009	124,991	
管理経費		1,328,324,000	1,328,210,888	113,112		
徴収不能額等		59,104,500	59,102,851	1,649		
教育活動支出計		10,245,612,500	10,245,275,160	337,340		
教育活動収支差額		147,342,500	181,083,210	△ 33,740,710		
教育活動外収支	科 目		予 算	決 算	差 異	
	教育活動収入の部	受取利息・配当金	243,000	253,729	△ 10,729	
		その他の教育活動外収入	34,500,000	34,565,413	△ 65,413	
		教育活動外収入計	34,743,000	34,819,142	△ 76,142	
	教育活動支出の部	科 目		予 算	決 算	差 異
		借入金等利息	139,912,000	139,911,359	641	
		その他の教育活動外支出	22,966,000	22,965,583	417	
		教育活動外支出計	162,878,000	162,876,942	1,058	
	教育活動外収支差額		△ 128,135,000	△ 128,057,800	△ 77,200	
	経常収支差額		19,207,500	53,025,410	△ 33,817,910	
特別収支	科 目		予 算	決 算	差 異	
	事業活動収入の部	資産売却差額	575,506,000	575,506,595	△ 595	
		その他の特別収入	25,459,000	25,484,633	△ 25,633	
		特別収入計	600,965,000	600,991,228	△ 26,228	
	事業活動支出の部	科 目		予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	91,490,000	91,487,144	2,856	
		その他の特別支出	334,978,000	334,959,121	18,879	
		特別支出計	426,468,000	426,446,265	21,735	
	特別収支差額		174,497,000	174,544,963	△ 47,963	
	〔予備費〕		(0)	/	100,000,000	
基本金組入前当年度収支差額		93,704,500	227,570,373	△ 133,865,873		
基本金組入額合計		△ 380,329,942	△ 380,329,995	53		
当年度収支差額		△ 286,625,442	△ 152,759,622	△ 133,865,820		
前年度繰越収支差額		△ 32,244,400,076	△ 32,244,400,076	0		
基本金取崩額		0	0	0		
翌年度繰越収支差額		△ 32,531,025,518	△ 32,397,159,698	△ 133,865,820		
(参考)						
事業活動収入計		11,028,663,000	11,062,168,740	△ 33,505,740		
事業活動支出計		10,934,958,500	10,834,598,367	100,360,133		

貸借対照表

令和 5年 3月31日

(単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	75,645,178,066	77,381,480,949	△ 1,736,302,883
有形固定資産	66,957,979,258	68,659,920,543	△ 1,701,941,285
その他の固定資産	8,687,198,808	8,721,560,406	△ 34,361,598
流動資産	5,097,943,491	3,754,358,537	1,343,584,954
資産の部合計	80,743,121,557	81,135,839,486	△ 392,717,929
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	8,404,598,168	9,068,233,089	△ 663,634,921
流動負債	3,086,388,213	3,043,041,594	43,346,619
負債の部合計	11,490,986,381	12,111,274,683	△ 620,288,302
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	101,649,294,874	101,268,964,879	380,329,995
第1号基本金	100,946,294,874	100,565,964,879	380,329,995
第4号基本金	703,000,000	703,000,000	0
繰越収支差額	△ 32,397,159,698	△ 32,244,400,076	△ 152,759,622
翌年度繰越収支差額	△ 32,397,159,698	△ 32,244,400,076	△ 152,759,622
純資産の部合計	69,252,135,176	69,024,564,803	227,570,373
負債及び純資産の部合計	80,743,121,557	81,135,839,486	△ 392,717,929

財 産 目 録

令和5年3月31日

I 資産総額	80,763,364,511円
内 基本財産	62,079,907,846円
運用財産	11,404,782,639円
収益事業用財産	7,278,674,026円
II 負債総額	11,495,080,879円
III 正味財産	69,268,283,632円

項 目	年 度 末	
一 資産額		
(一)基本財産		
1 土地	504,476.54㎡	40,245,462,773円
2 建物	204,411.35㎡	17,434,647,094円
3 構築物	945件	332,557,064円
4 図書	297,395冊	1,808,060,597円
5 教具・校具及び備品	59,153点	1,207,017,872円
6 その他		1,052,162,446円
(二)運用財産		
1 預金・現金		4,736,810,173円
2 その他		6,667,972,466円
(三)収益事業用財産		
1 事業用敷地	3,505.97㎡	5,918,806,879円
2 その他		1,359,867,147円
資産総額		80,763,364,511円
二 負債額		
1 固定負債		
(1)長期借入金		7,210,532,000円
(2)長期未払金		178,553,329円
(3)その他		1,015,512,839円
2 流動負債		
(1)短期借入金		621,342,000円
(2)前受金		1,196,520,087円
(3)その他		1,272,620,624円
負債総額		11,495,080,879円

監 査 報 告 書

令和5年5月27日

学校法人 都築学園

理事会 御中

評議員会 御中

監事 木 下 亮



監事 脇 田 美 徳



私たちは、学校法人都築学園監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて同学園の令和4年度（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）基本調査、基礎調査、実態調査、事業報告書、予算書、財産目録および計算書類（資金収支計算書、活動区分資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び付属明細表）を含め、学園が作成している運営に関する中期計画の進捗状況を確認し、学校法人の業務及び財産の状況、並びに理事の業務執行の状況について監査を行いました。

私たちは監査に当たり、理事会その他の重要な会議に出席するほか理事から報告を聴取し、重要な決済書類等を閲覧し、また各担当部門に聴取するなど必要と思われる監査手続きを実施しました。

監査の結果、私たちは学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、基本調査票、基礎調査票、実態調査票は関係資料と符号しており、事業報告書、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正な行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

独立監査人の監査報告書

令和5年6月1日

学校法人都築学園
理事会 御中

中西裕二公認会計士事務所
福岡県福岡市

公認会計士

中西 裕二



監査意見

私は、私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づく監査報告を行うため、平成27年3月30日付け文部科学省告示第73号に基づき、学校法人都築学園の令和4年度（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）の計算書類、すなわち、資金収支計算書（人件費支出内訳表を含む。）、事業活動収支計算書、貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む。）、収益事業に係る貸借対照表及び損益計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

私は、上記の計算書類が、学校法人会計基準（昭和46年文部省令第18号）に準拠して、学校法人都築学園の令和5年3月31日をもって終了する会計年度の経営の状況及び同日現在の財政状態を全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、学校法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、平成27年3月30日付け文部科学省告示第73号に基づく貸借対照表、収支計算書、その他財務計算に関する書類に含まれる情報のうち、計算書類及びその監査報告書以外の情報である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の業務執行の状況を監視することにある。

私の計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類の監査における私の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、

その他の記載内容と計算書類又は私が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

私は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、私が報告すべき事項はない。

計算書類に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、学校法人会計基準（昭和 46 年文部省令第 18 号）に準拠して計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類を作成するに当たり、理事者は、継続法人の前提に基づき計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、継続法人に関する事項を記載する必要があると判断した場合には、当該事項を記載する。

監事の責任は、学校法人の財務報告プロセスの整備及び運用における理事の業務執行の状況を監視することにある。

計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続法人を前提として計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続法人の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は

状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続法人の前提に関する注記がなされている場合は、監査報告書において計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類の注記事項が適切でない場合は、計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、学校法人は継続法人として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 計算書類の表示及び注記事項が、学校法人会計基準（昭和46年文部省令第18号）に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類の表示、構成及び内容、並びに計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

学校法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上